

特集のご案内 ヘルスリテラシー -健康を決める力- Introduction of Special Issue “Health Literacy -Determinant of Better Health”

木内貴弘
Takahiro Kiuchi

日本ヘルスリテラシー学会会長
第1回日本ヘルスリテラシー学会学術集会大会長
東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学分野
President of Japanese Health Literacy Association
Congress Chair of the First Annual Meeting of Health Literacy Association, Japan
Department of Health Communication, School of Public Health, The University of Tokyo

本特集号では、第1回日本ヘルスリテラシー学会学術集会のシンポジウム「ヘルスリテラシー -健康を決める力-」での2つの講演内容をもとに、各講演の演者の先生各々に総説を執筆していただいて、掲載しています。

日本ヘルスリテラシー学会の記念すべき第1回学術集会のシンポジウムを企画するにあたり、学会の運営委員が集まり、企画内容について充分に話し合いを行いました。その結果、第1回学術集会では、ヘルスリテラシーの個々のトピックを取り上げるのではなく、もっとも根本的な原点に立ち返って、ヘルスリテラシーとはそもそもどういうものなのかについてのシンポジウムを開催することに決まりました。

シンポジウムの演者ですが、まずヘルスリテラシーを長い間コアな研究分野とされている中山和弘先生に「ヘルスリテラシーとは何か」ということについて、ご講演をいただき、様々な学説等を踏まえながらヘルスリテラシーの概念の最新の状況についてお話しいただくことにしました。次に国際的にも広く活用されているヘルスリテラシーの尺度を開発された石川ひろの先生に、「ヘルスリテラシーをどう測るか」という演題で、ヘルスリテラ

シーを測定するために開発された各種の測定法や測定の考え方についてご講演いただきました。

ヘルスリテラシーの概念（「ヘルスリテラシーとは何か」）と測定法（「ヘルスリテラシーをどう測るか」）は、互いに相補的で密接な関連があります。ヘルスリテラシーの概念を明確することは非常に重要ですが、たとえ概念が明確になっても、現実に実施可能な方法で測定できなければ実証的な研究には役に立ちません。このためにヘルスリテラシーの概念を検討する上で、その概念で定義されたヘルスリテラシーを実際的な方法で測定できるかどうかは重要な観点です。一方、ヘルスリテラシーの測定方法によって、ヘルスリテラシーの概念を規定することも可能です。例えば、心理学における知能測定でよくやられているように、「特定の方法で測定されたものをヘルスリテラシーと呼ぶ」というように、ヘルスリテラシーを操作的に定義することも可能です。

本特集掲載の2つの総説により、読者がヘルスリテラシーについてより深い認識を得られるものと信じています。